

東名古屋病院呼吸器内科 研修報告

鈴木 北斗
Hokuto Suzuki

NHO 旭川医療センター 呼吸器内科

2017年1月から3ヶ月間 NHO のフェローシップ制度を利用して研修を行わせて頂きましたのでここに報告致します。NHO のフェローシップ制度とは、機構に所属する若手医師が専門医取得や自らのスキルアップを目的として、所属病院とは異なる他の機構病院へ一定期間留学し研修を積むための制度です。呼吸器内科としては現在 12 施設（当院も参加しています）が選択でき、今回はその中で東名古屋病院を選択致しました。

東名古屋病院は愛知県名古屋市名東区および隣接する日進市にあり、病床数は 468（一般 408 床うち 53 床休床、結核 60 床）という当院と近い規模の病院です。非結核性抗酸菌症および肺結核、肺真菌症の診療においては国内有数の経験があり、また研究にも大変注力されている病院です。ほかにも神経難病や脳卒中、回復期リハビリにおいても地域の中核となっています。病院の性格も当院に類似しており、急性期+回復期をメインとして幅広い患者層に対応しています。また院内の雰囲気もよく似ており、比較的部門間や診療科間の垣根が低い印象の病院でした。

私は初期研修医の時分から旭川医療センターにて勤務しておりますが、初期研修中には市内の各病院や東京医療センター、八雲病院など他病院に研修でお世話になることも多かったものの、後期研修以降はほとん

どありませんでした。そのため、他病院での診療を経験したい、患者数が増加している非結核性抗酸菌をふくめ抗酸菌の治療経験を積みたい、呼吸不全に対する呼吸療法の経験が積みたいといった思いがありました。その際に当時の上司である藤内智先生（現 永山内科・呼吸器内科クリニック院長）からフェローシップ制度を紹介していただき、東名古屋病院にお世話になることができました。

東名古屋病院では結核を主とした抗酸菌感染症の治療や NPPV 導入、肺炎や COPD などの回復期リハビリなどを入院主治医として担当させていただきました。3ヶ月間のうちに 25 症例を経験させて頂き、そのなかには縦隔炎などの比較的稀な疾患も含まれております。また日常診療のほか週に一度行われる新規入院全症例のカンファレンスやリハビリ合同カンファレンスなどもあり、他医師の症例も拝見する機会がおおく大変参考になりました。

興味深い症例としては、感冒症状（咽頭炎など）および重労働後に胸痛にて発症、縦隔炎を引き起こし絶食にて入院加療が必要となった若年男性。入院前より少量の腹水貯留を認め肺結核+腹膜結核と考え治療を開始した患者が、入院後腹痛増悪および腹水増加を来し精査を実施したところ脾臓梗塞+脾門部動脈瘤+腹腔内出血を来した一例。血液培養陽性の粟粒結核に

て入院し、酸素濃度 80% 以上のネーザルハイフローを必要とするも抗結核薬およびステロイド使用にて酸素離脱し ADL 自立まで改善した症例などがあげられます。

研修中は慣れない環境や病院システム、ローカルルール、異なる電子カルテに戸惑うことも多くありましたが、段々と慣れ急変時なども早い対応ができるようになりました。しかし 3 か月という期間のためやっとな慣れたと思ったところに研修期間終了となり、もうすこし長期の研修をお願いすべきだったかとも今では思います。ですが、比較的短い期間ながら多くの症例を経験させていただき、結核の治療・管理や非結核性抗酸菌症、肺真菌症の治療など今後の診療につながる知識や経験は得ることができたという実感はあります。

今後は旭川医療センターでの診療において経験を活かし還元していきたいと考えております。小川先生はじめ東名古屋病院呼吸器科の皆様、また NHO 機構本部や東名古屋病院職員の皆様には大変お世話になり感謝申し上げます。